

## かわしんの環境関連商品

### かわしんISO関連特別融資

- ご利用いただける方… 当金庫と継続して6ヶ月以上与信取引がある方
- ご融資金額…………… 1,000万円以内
- ご融資期間…………… 運転資金5年以内(据置6ヶ月以内)  
設備資金7年以内(据置12ヶ月以内)
- お使いみち…………… ISO9001及び14001に係わる円転及び設備資金
- ご返済方法…………… 元金均等分割返済 利息先取
- 保証人…………… 代表者は連帯保証人
- 担保…………… 原則不要であるが、一部協議により必要となる場合があります
- 金利…………… 変動金利扱い基準金利は長プラ+0.7%とします

### 環境クリーン定期預金

募集達成総額の一定割合を川口信用金庫から埼玉県へ環境保全活動に役立てていただくよう寄付いたします。お客さまのご負担はございません。

- ご利用いただける方… 個人のお客さま
- お預け入れ期間…………… 1年の自動継続定期預金
- ご預金の種類…………… スーパー定期
- お預け入れ金額…………… 10万円以上300万円以内(1万円単位)
- 適用金利…………… スーパー定期1年ものの店頭表示金利(契約時)に0.015%上乗せいたします
- お預け条件…………… 当金庫へ新たにお預け入れいただく資金に限ります
- 取扱期間…………… 平成24年10月1日(月)～募集総額販売完了まで
- 募集総額…………… 100億円(募集総額に達し次第販売を終了いたします)

### その他の環境関連融資

- 環境みらい資金(県制度資金) 公害防止施設・快適な生活環境の創造・地球温暖化対策等

### カーライフプラン・エコカー(環境自動車)資金

お取扱期間:平成24年4月2日(月)～平成25年3月29日(金)

かわしんは環境保護を応援します

本金利プラン基準金利 年2.7%(固定金利)  
保証料別途

- エコカー購入(低排出ガス適合車[四ツ星以上]・ハイブリッド車・電気自動車購入資金)
  - 「ゴールド免許」をお持ちの方
  - 「パパ・ママ優待カード」をお持ちの方
- ※いずれかに該当する方

年1.8%  
(固定金利)

保証料別途

年2.4%  
(固定金利)

保証料別途

本金利プランのかわしんのカードローンをお持ちの方  
対象となる方(新規可)

- ご利用いただける方 ● 当金庫の営業地区に居住又は勤務されている方  
● 満20歳以上で継続して安定収入がある方  
● 一般社団法人しんきん保証基金の保証が得られる方
- ご融資金額…………… 10万円以上500万円以内(1万円単位)
- ご融資期間…………… 5年以内
- お使いみち…………… ● 自動車購入・二輪車購入(ただし、営業用車を除く)  
● 車検、修理、運転免許取得資金等、および同資金用途の旧借返済資金で当金庫より支払先への振込ができるもの
- ご返済方法…………… 毎月元金または元金等返済、ボーナス併用返済もできます。ただし、ボーナス返済部分の元金は、ご融資金額の50%までとします
- 保証人…………… 一般社団法人しんきん保証基金が保証しますので必要ありません
- 保証料…………… 別途、保証料(0.86%)を一括でお支払いいただきます

ローンの詳しい内容、または現在のご融資利率やご返済の試算については当金庫の本店にお問い合わせください

 **川口信用金庫**  
http://www.shinkin.co.jp/ksb/

〒332-8686 埼玉県川口市栄町3丁目9番3号  
TEL048-253-3333 FAX048-254-2665



JQA-EM 4039  
本部及び本店営業部

 **川口信用金庫**

チャレンジ  
25

未来が変わる。日本が変わる。

# かわしんの環境活動報告書

第6号

平成24年11月発行



川口市の木サザンカ(山茶花)。  
花が少なくなる季節に咲くツバキ科の耐寒性常緑樹です。花色は赤、ピンク、白などがあります。

かわしんはISO14001を平成16年5月に取得し、環境保全活動を実践しています。



この冊子は環境にやさしい大豆油インクを使用しています。



JQA-EM 4039  
本部及び本店営業部



皆さんこんにちは

日頃より川口信用金庫をご利用ご愛顧いただき誠にありがとうございます。当金庫は「地域のための地域の金融機関」として大正13年に創業し平成26年に創業90周年を迎えますが、ここまで歩んでこられたのも偏にみなさまのご支援による賜物と深く感謝申し上げます。

さて、今年も夏は猛暑に見舞われ、東の間の秋を終え間もなく冬を迎えようとしております。当金庫は平成16年5月に国際的環境基準である「ISO14001」を取得以来、社会的責任の一つとしてCO2削減を掲げ「環境にやさしい“かわしん”」として節電に取り組んでおります。しかしながら、東日本大震災による原発事故の影響による電力の供給不足が顕在化・慢性化するなか、再生エネルギーによる発電は全体の3.5%に過ぎず、化石燃料を使った火力発電に頼る電力供給を余儀なくされておりCO2排出削減を目指すものにとって厳しい環境となっています。

このような環境のなか、“かわしん”は節電だけでなく廃棄物や紙の使用削減にも取り組み、さらに地球温暖化防止活動として埼玉県と川口市が推進している「エコライフDAY」へ全部署の職員の参加による省エネルギーへの取り組み、埼玉県が主催する「みどりと川の再生」を応援する植樹への参加、また、「環境クリーン定期預金」による埼玉県の「彩の国みどりの基金」への寄附などにより県内の森林や河川の再生や環境保全に貢献しております。

今後も地域の皆様とともに省エネ・エコの実現をさらに発展させて地域の温暖化防止活動、環境保全活動、スマートグリッドの導入の検討、などに取り組んでまいりたいと考えております。

平成24年11月

会長 山口泰男  
理事長 日下義章



### 童謡「たきび」にも歌われる 川口市の木「サザンカ」

「かきねの 垣根の まがりかど たきびだ 焚火だ 落葉たき」で始まる童謡「たきび」は、児童文学者で歌人の巽聖歌(たつみ・せいが)の作詞です。「さざんか 山茶花 さいた道」と歌われるサザンカ(山茶花)は、ツバキ科ツバキ属の耐寒常緑高木で、たき火が恋しくなる10月～2月が開花期です。

花色は赤やピンク、白色など。サザンカは花の少ない季節に色鮮やかな花をつけることから生け垣などに多く用いられました。

昭和49年7月1日、川口市は市制施行40周年を記念してサザンカを「市の木」に制定しました。当

## 環境方針

### I. 基本理念

川口信用金庫は、「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を経営の基本とし、協同組織による地域金融機関としての社会的使命と公共的使命を自覚し、全役職員が一丸となって地域の発展と環境保全に積極的に取り組みます。

### II. 基本方針

1. 当金庫が行う事業活動が、環境に影響を及ぼす要因を的確にとらえ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を定めるとともに、定期的或いは諸条件の変化に対応し適宜レビューを行い、継続的に改善し、環境汚染の予防に取り組みます。
2. 前記事業活動が環境に影響を及ぼす要因の中で、特に、地域社会への貢献、中小企業経営再建支援、及び福祉・環境を大切にす地元金融機関を目指した活動に重点を置き、地域社会との連携を強化しつつ環境保全に取り組みます。
3. 環境に関する適用可能な法的要求事項及び業界行動指針等、その他の要求事項を順守します。
4. 一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、環境マネジメントシステムの効果をあげる為、その環境方針を全役職員、又は当金庫のために働く全ての人に周知徹底を図ります。
5. この環境方針を金庫内外に広く公開します。

## 平成24年度環境目標

### I. 環境に有害な影響を及ぼすものへの削減取り組み

1. 電力の使用量  
電力使用量を15.0%削減する(14年度比)
2. 廃棄物の分別と排出  
廃棄物の分別を推進するとともに、物件費を13.0%削減し、排出量の削減を図る(14年度比)
3. 紙の使用・廃棄  
紙費用を16.0%削減する(14年度比)

### II. 環境に有益な影響を及ぼすものへの取り組み

1. 既存の環境関連金融商品の拡販
2. 新規の環境関連金融商品の企画・開発・販売
3. OA機器の効率的活用
4. コンプライアンス及び信頼性・健全性の確保
5. 顧客へのISO普及・支援
6. 各種地域貢献活動の立案及び実行
7. 環境関連のその他サービスの提供

## ISO・環境関連の経歴

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| H15.9.1     | 「環境管理室」設置                      |
| H15.9.12    | 第1回コンサルティング開発                  |
| H15.12.3    | かわしんISO関連特別融資の発売開始             |
| H16.5.28    | ISO認証取得(H16.5.28～H19.5.27)     |
| H17.6.21    | クールビズ開始(以降毎年6月～9月実施)           |
| H17.11.1    | ウォームビズ開始(以降毎年11月～3月実施)         |
| H19.2.13    | ISO更新審査(H19.5.28～H22.5.27)     |
| H19.7.2     | かわしん環境クリーン定期預金発売(第1次募集)        |
| H19.10.1    | かわしん環境活動報告書Vol.1発行             |
| H19.10.1    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第2次募集)        |
| H20.6.9     | 「チーム・マイナス6%」運動への参加             |
| H20.6.24    | (財)さいたま緑のトラスト基金へ寄付             |
| H20.7.1     | かわしん環境クリーン定期預金発売(第3次募集)        |
| H20.11.11   | かわしん環境活動報告書Vol.2発行             |
| H21.2.16    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第4次募集)        |
| H21.5.19    | (財)さいたま緑のトラスト基金へ寄付             |
| H21.5.19    | 彩の国みどりの基金へ寄付                   |
| H21.7.11    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第5次募集)        |
| H21.11.10   | かわしん環境クリーン定期預金発売(第6次募集)        |
| H21.11.30   | かわしん環境活動報告書Vol.3発行             |
| H22.2.15    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第7次募集)        |
| H22.3.10    | ISO更新審査(H22.5.28～H25.5.27)     |
| H22.5.19    | 彩の国みどりの基金へ寄付                   |
| H22.6.13    | 川口市エコライフデー参加                   |
| H22.6.15    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第8次募集)        |
| H22.11.15   | かわしん環境クリーン定期預金発売(第9次募集)        |
| H22.11.30   | かわしん環境活動報告書Vol.4発行             |
| H22.12.16   | 彩の国みどりのサポーターズクラブ入会             |
| H22.12.20   | 埼玉県植樹エントリー制度(一人1本植樹運動)へ参加      |
| H23.1.11    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第10次募集)       |
| H23.1.23    | 川口市エコライフデー参加                   |
| H23.2.27    | 埼玉県みどり再生課主催記念植樹参加(県立狭山自然公園)    |
| H23.5.18    | 彩の国みどりの基金へ寄付                   |
| H23.6.12    | 川口市エコライフデー及びチャレンジエコライフ参加       |
| H23.8.5     | 鳩ヶ谷市里小学校校庭にて緑化推進事業として植樹        |
| H23.10.11   | かわしん環境クリーン定期預金発売(第11次募集)       |
| H23.12.15   | かわしん環境クリーン定期預金発売(第12次募集)       |
| H24.2.29    | エコ通勤優良事業所として認証登録               |
| H24.4.2     | 「環境管理室」から「社会貢献課」へ組織変更          |
| H24.5.14    | 彩の国みどりの基金へ寄付                   |
| H24.5.20    | 埼玉県緑化推進委員会主催植樹祭参加(春日部市)        |
| H24.7.20    | 埼玉県エコライフデー(夏のキャンペーン)への参加       |
| H24.9.15・16 | 川口エコチャレンジプロジェクト省力・省エネ方運搬器具製作協賛 |
| H24.10.1    | かわしん環境クリーン定期預金発売(第13次募集)       |

時、全国的に緑化が進められており、川口市にも緑化推進委員会が設けられました。市民に親しみやすく、移植が容易で一般家庭や公園などに広く活用できることから、市民投票の結果を参考にして、17種の樹木の中からサザンカに決定されました。

たき火と言えば、焼き芋を連想する方も多いのではないのでしょうか。童謡「たきび」が誕生したのは昭和16年、まだまだ娯楽が少ない時代のことです。たき火を囲んでおしゃべりを楽しむ。そんなのどかな風景が、川口のまちのあちこちにあったことでしょう。サザンカは、懐かしい記憶に色を添え、今も多く市民から愛される冬を代表する樹木です。

童謡「たきび」誕生の地は、東京都中野区だとか。生け垣が続く武蔵野の風景が詩情を湧かせたのでしょうか。





報告書から広がれ  
一人ひとりにできる  
エコな取り組み

埼玉新聞社代表取締役社長  
小川秀樹さん

川口信用金庫の環境活動報告書に意見を寄せるのは、3回目になります。出会いは日下義章理事長を囲んだ座談会で、「企業の情報発信力を支援することが、メディアの重要な役割の一つで、読者や市民、企業、NPOなどを結び付け地域のネットワークを広げること、そうした気運を醸成することが地元新聞社の使命」とお話ししました。

今年の報告書は、埼玉新聞社が手がける環境キャンペーンの特集記事をうまく活用し、「エコ通勤」をテーマに情報を発信しています。

新聞社にとって記事は貴重な財産です。埼玉新聞では公共の利益につながることを要件として2次使用を許可しています。この報告書は、川口信用金庫の取り組みを発信することだけに止まらず、エコ通勤を広めようと試みており、総頁数の1/3を割いています。また、発行部数は環境報告書としては異例の2万部です。

エコな取り組みを地域社会へ「広める」意味から高く評価できるポイントだと思います。

川口信用金庫は、国交省などがエコ通勤に積極的な企業や自治体を「優良事業所」として認証する制度に、県内事業者としていち早く認証され、登録事業所数も県下一です。温暖化対策の効果や取り組みのノウハウなどをエコ通勤の普及に役立てていただけるよう期待したいと思います。

エコインタビューには県スポーツ振興課の佐藤裕之課長が登場しています。健康増進、省エネルギー、温暖化対策の「一石三鳥」を狙った「スポーツ通勤」の話題に関心をもちました。

実は、私はスポーツ通勤の実践者で、JRの最寄駅から会社まで徒歩で通勤しています。歩幅を広くして腕を大きく振り早足で30~40分、この時期だとじんわりと汗がにじみます。体を動かす意味もありますが、街や暮らしの変化、季節の移ろいなどを感じられるのが魅力で、歩きながら気づいたことを忘れないようにメモしています。

エコ通勤やスポーツ通勤に取り組むには交通安全対策や就業規則との整合など、企業には課題もあります。しかし、個人でできることから始めれば、社内的な環境も整いやすくなるでしょう。また、自転車専用レーンなどの社会基盤整備にもつながると思います。

この報告書には、読者一人ひとりが手軽に取り組めるエコの手がかりが提案されており、「広がり」のきっかけになることを大いに期待しています。

エコ通勤の取り組みが埼玉新聞で紹介されました

温暖化対策に大きな効果  
取り組みを地域社会へ

マイカーから自転車や徒歩、電車やバスなどの公共交通機関へ切り替える「エコ通勤」が広がっている。国土交通省の調査によればエコ通勤によって約1割の二酸化炭素(CO2)削減効果が期待できることから本格的な普及が始まった。

エコ通勤普及のメリットは温暖化対策だけではない。事業者にとっては通勤時の交通事故減少やマイカー通勤者用の駐車場代の経費削減などにつながるし、従業員にとっては運動量の増加による健康増進になる。さらには、交通渋滞の緩和や公共交通網の活性化などが期待できることから、地域社会にもメリットが大きい。

国交省などでつくる公共交通利用推進等マネジメント協議会は、エコ通勤に積極的に取り組む企業や自治体を「優良事業所」として認定する制度を平成21年に創設。先月末までに全国で562の事業所を認定登録した。

県内の認定数は66。このうち多数を占めているのが川口信用金庫(本店・川口市)だ。今年2月に本店、支店を合わせて45の事業所を認証登録、民間事業所としては県内初のことだった。

同金庫のエコ通勤の歴史は古く、スタートしたのは昭和54年。原油の供給がひっ迫し価格が高騰した第2次オイルショックの年で、当初は石油消費削減と通勤時の交通事故防止からマイカー通勤を原則として禁止した。以来、同金庫のエコ通勤率は100%。総務部長で地域貢献課課長を兼務する田中茂雄さんはこう話す。

「バスや電車など公共交通機関の利用と徒歩が原則です。エコ通勤で言えば自転車利用も推奨すべきですが、交通事故防止の観点から届出を求めています。自宅から最寄駅まで遠く、バス路線がない場合などに利用されています」

同金庫の職員数(契約、嘱託、パートを含む)は862人で、1日の往復通勤距離は2万5134.6km。全職員がマイカー通勤した場合のCO2排出量を、出勤日数を250日として国交省の「エコ通勤の手引き」を基に算出すると年間約1490トンにもなる。認証登録を機にエコ通勤の効果を見直して、田中さんはこう語る。

「30年以上も続けてきたこともあって、職員にとってエコ通勤は当たり前になっていますが、大きな削減効果に改めて驚いています。エコ通勤は公共交通機関の利用促進につながりますし、積極的に実践している姿を発信して地域社会へも取り組みを広げていきたいですね」

HIGH LIGHT 2012



埼玉新聞(2012年9月26日付)の環境キャンペーン特集

自転車通勤時の安全確保  
エコ通勤の普及に課題

熊谷市の総合エンジニアリング商社オキナヤは平成21年9~11月の3カ月間、通勤に電動アシスト自転車を活用する環境省の社会実験に参加した。本社勤務の社員全てがマイカーで通勤している中で、実験には13人が参加。実験では、無料で貸し出された電動アシスト自転車で片道2~10kmを通勤してもらい、日数と距離から算出したCO2削減量をパソコンと「おサイフケータイ」機能などを使って把握した。

1人平均のエコ通勤日数は26.4日、総走行距離は3778kmに達した。充電が必要のためCO2排出量はゼロにはならないが、ガソリン約270リットル分に当たる排出量の削減につながる結果になった。

実験を担当した総務部長の星野秀明さんは、当時を振り返ってこう言う。

「自転車通勤は天気大きく左右されるため、思いのほか日数が伸びなかった印象です。バスの本数が少ないため雨天時や残業時の対応、夏場の汗対策や更衣室の準備、通勤規定や手当の問題などエコ通勤導入の課題がはっきりしました」

今、参加者全員がマイカー通勤に戻った。特に心配したのは交通事故だったという。「保険には加入していたが、毎日毎日気をもみました。ヘルメットを支給すべきだったと気づいたのは実験が終わった後でした」と本音を漏らす。エコ通勤について、星野さんはこう感じている。

「自転車によるエコ通勤の本格普及には、自転車専用道路の充実や法整備に加え、公共交通網の整備も必要です。企業や個人だけで通勤スタイルを転換するのは難しい」

※2012年9月26日掲載の埼玉新聞環境キャンペーン特集から抜粋しました。  
※埼玉新聞社の許可を得て転載しています。

ECO EYES

東京ドーム41個以上のスギ林に匹敵!?  
エコ通勤でCO2排出量を削減

かわしんの職員数(契約、嘱託、パートを含む)は862人で、全職員の1日の往復通勤距離は2万5134.6kmにもなります。

仮に、全職員がマイカー通勤した場合のCO2排出量を、出勤日数を250日として国交省の「エコ通勤の手引き」を基に算出すると、年間約1490トンになります。

これは、80年生のスギ人工林194ha(スギ約10万3400本)以上が年間に吸収するCO2量に匹敵します。東京ドームの面積に換算すると、なんと41個分以上に相当します。エコ通勤によって期待できるCO2削減量の大きさに驚かされます。

※林野庁の試算を基に算出しました。

エコ通勤によるCO2削減量(期待値)

スギ林194haが  
1年間に吸収する  
CO2量

194ha = 東京ドーム  
41個分以上の広さ





## 「スポーツ通勤」で健康増進とエコアップを

県教育局スポーツ振興課課長 佐藤裕之さん

健康によく、環境にも優しい「スポーツ通勤」の普及を進めています。環境に配慮する視点で通勤のあり方を考えるのが「エコ通勤」とすれば、日常生活の中で手軽に体を動かす機会として通勤を捉えたのが、スポーツ通勤です。

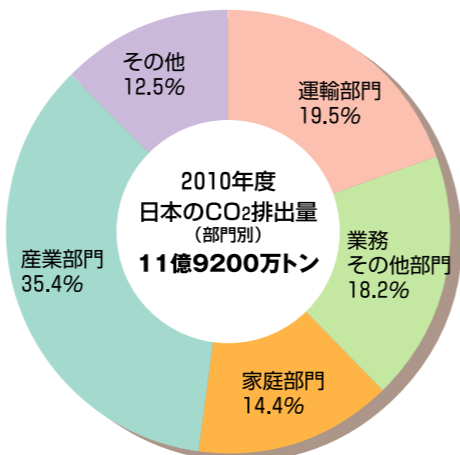
歩く時、背筋を伸ばして視線を上げ、腕を大きく振って歩幅を広げてみましょう。早歩きする感じで、軽い負荷をかける「ウォーキング」を意識するといでしょう。

例えば、体重60kgの人が20分間ウォーキングすると約84キロカロリー消費すると言われています。これは、バナナ1本分に相当するカロリーです。

また、片道2kmをマイカーで通勤している人が週2回、徒歩や自転車に替えると1カ月でガソリン2.2リットル節約できます。これを二酸化炭素排出量に換算すると約5.2kgの削減につながります。

### CO<sub>2</sub>排出量の約2割は自動車から

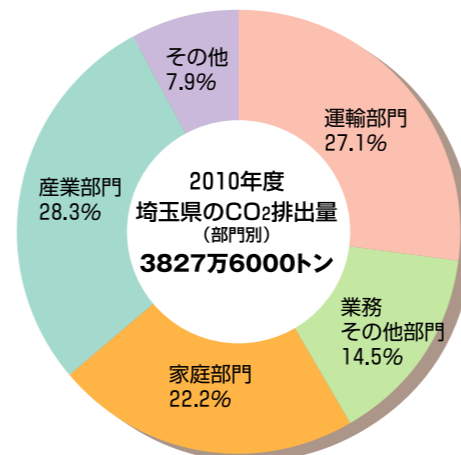
2010年度のCO<sub>2</sub>排出量は、11億9200万トンでした。このうち「運輸部門」は2億3192万トンで、全体の19.5%を占めています。鉄道や航空、海運などを除いた88.1%が自動車からの排出量です。



(国交省環境政策課資料)

### 埼玉県のCO<sub>2</sub>排出量 運輸部門27%超

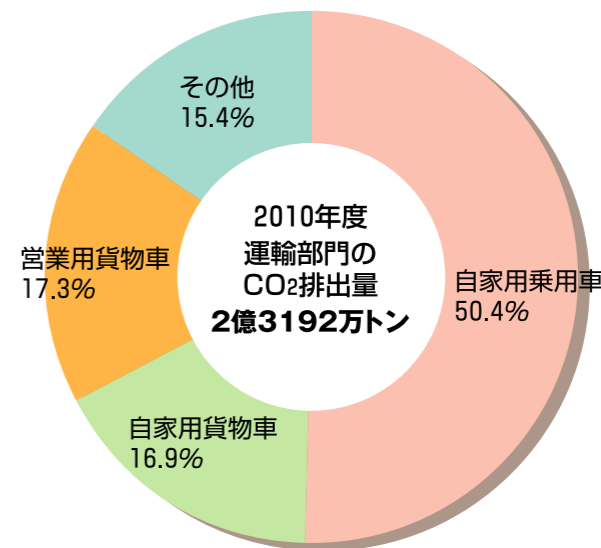
2010年度の埼玉県のCO<sub>2</sub>排出量は、3827万6000トンでした。「運輸部門」は1038万1000トンで、全体の27.1%を占め、日本全体と比較すると高い割合になっています。



(埼玉県がまとめた2010年度排出量推計値を元に作成)

### 運輸部門の5割以上が自家用車

運輸部門の50.4%を「自家用乗用車」が占めています。京都議定書が定める基準年(1990年)と比較すると、貨物は減少(16.4%減)しているのに対し、自家用車を含む旅客が大幅に増加(28.5%増)しています。



(国交省環境政策課資料)

「エコ通勤」をご存知ですか?自転車や徒歩、電車やバスなどの公共交通機関を利用して通勤することです。マイカー一通勤からエコ通勤に切り替えることで、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を約1割削減できるとか(国交省調べ)。温暖化対策だけでなく、健康増進や交通事故防止、渋滞緩和など個人や企業、地域社会でさまざまなメリットが期待されています。

# 環境に優しい「エコ通勤」にしてみませんか?

ります。

県は、週に1回以上スポーツする20歳以上の県民の割合を60%以上に引き上げることを目標にしています。健康志向の高まりから、特にシニア層のスポーツ人口は増えています。その一方で、子育てや仕事に忙しい20~40歳代ではまだまだで、この年代の底上げが課題です。

そこで、日常生活の中で手軽に体を動かす「ながらスポーツ」を提案しています。スポーツ通勤もその一つで、健康増進と省エネルギー、温暖化対策の「一石三鳥」を狙って効果をアピールし、まずは体を動かす意識づけを図っています。

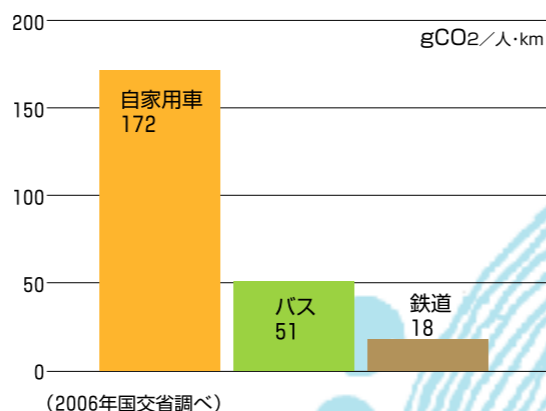
そこを入口にして、自分ができるスポーツを自ら探して発見し取り組むことにつなげたいですね。生涯に亘って健康で生き生きと過ごす「スポーツライフ」を、一人ひとりに構築していただくことが理想です。

スポーツ通勤の取り組みは、県内の事業所にも広がっており、好事例をホームページで紹介していますので参考にしてください。併せて、「ながらスポーツ」のアイデアも募集しているので、ご協力ください。

ただし、スポーツ通勤を実践する前には服則規則などを必ず確認してください。もちろん仕事との両立を、そして交通ルールを遵守を心がけましょう。

### CO<sub>2</sub>、バス通勤ならマイカーの1/10

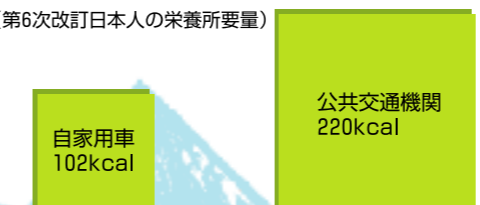
バスや電車などの公共交通機関を利用すると、CO<sub>2</sub>をどのくらい削減できるのでしょうか。国交省の調査によれば、1人が1km移動するときのCO<sub>2</sub>排出量を比較すると、鉄道は自家用車の1/10です。



### エコ通勤なら消費カロリー2倍以上

車で1時間移動する代わりにバスや電車などの公共交通機関を利用すると、消費カロリーは2倍以上になると言われます。例えば、エコ通勤を1年続けたら大きなダイエット効果が期待できると思いませんか。

(第6次改訂日本人の栄養所要量)



## Eco TOPIC

### エコアップと健康増進に「スポーツ通勤」 埼玉県スポーツ振興課がWEBなどで紹介

「エコアップと健康増進に」と、埼玉県教育局スポーツ振興課がユニークな通勤スタイルを提案しています。通勤を体を動かす機会ととらえた「スポーツ通勤」です。

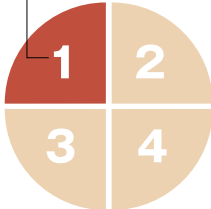
歩いて通勤するのなら、漫然と歩くのではなく、背筋を伸ばして視線を上げ、腕を大きく振って歩幅を広げます。軽い負荷がかかる「ウォーキング」をイメージするといでしょう。

ほかにも「コピーをとりながら」や「洗濯物を干しながら」できる軽い運動を「ながらスポーツ」と名づけて、取り組むヒントをWEBで紹介しています。温暖化対策、省エネルギー、そして健康増進と一石三鳥のスポーツ通勤に、挑戦してみてください。



<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/stuukin/>





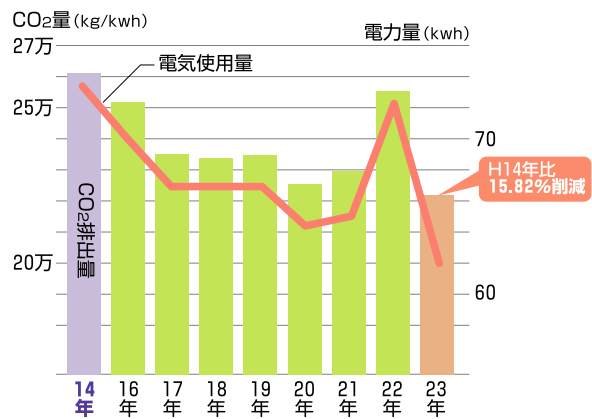
# Eco Facility

事業活動や環境を保全する活動で投入した資源と、生み出された価値を定量的に把握することが重要です。無駄を省き、浪費を抑えて効率的に環境負荷を最小限化する努力を続けていきます。

## 事業活動・環境活動の影響を把握しています

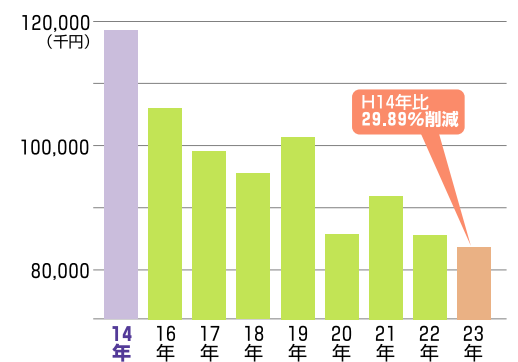
### 電力とCO<sub>2</sub>排出量の削減

電力使用量は62万874kWhでした。原発事故による電力不足に対応して積極的に節電を進めた結果、前年比で△14.16%と大幅に削減することができました。また、平成14年度比では△15.82%で、平成23年度の目標(△13.9%)を達成しました。



### 紙の使用と排出量の削減

廃棄物全体のうち、特に「紙の使用量」と「排出量」に注目しました。金額ベースで、前年比515万5000円を削減しました。また、平成14年度比では3517万9000円を削減。削減率は29.89%で、平成23年度の目標(△15.5%)を大きく上回りました。



### エネルギー削減の取り組み

上尾支店は太陽光発電システムを設置して、ロビーの照明や空調に利用しています。発電量は季節や天候に左右されますが、同支店の月間電力使用量の30~40%を賅うことができます。

また、本店や他の支店では消費電力が少なく、長寿命のLED照明や省エネタイプの蛍光灯、高効率反射板「レフボ」を採用するなど省エネに努めています。

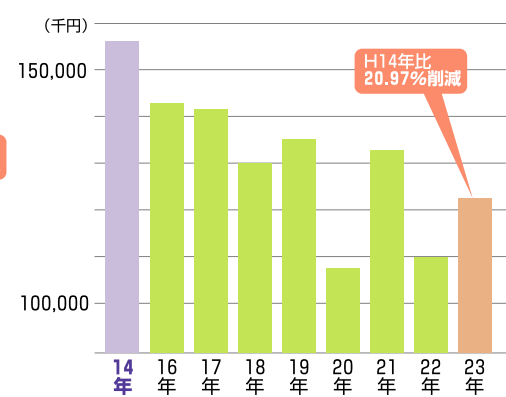
集中式エアコンを順次廃止し、分散型エアコンに切り替えているほか、クール・ビズとウォーム・ビズの実施、OA機器の効率的な活用や営業室内の不要な照明の消灯などに取り組んでいます。

■上尾支店の電気料の推移(単位:kWh)

|        | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 太陽光発電分 | 1,819 | 1,524 | 1,140 | 346   | 1,974 | 1,905 | 2,323 | 2,047 | 2,002 | 1,617 | 1,366 | 1,332 |
| 通常分    | 3,881 | 3,913 | 3,239 | 1,914 | 1,603 | 1,853 | 1,818 | 1,862 | 2,001 | 1,723 | 1,846 | 2,320 |
| 計      | 5,700 | 5,437 | 4,379 | 2,260 | 3,577 | 3,768 | 4,141 | 3,909 | 4,003 | 3,340 | 3,212 | 3,652 |

### 廃棄物の削減

事業活動に投入したすべての資源は消費され、最終的には廃棄されることから、物品の購入金額から廃棄物の全体量を定量的に把握しています。平成23年度の目標は、平成14年度比で物件費12.5%削減。これを大きく上回る20.97%の削減率を達成しました。



### 保管文書の廃棄と再生

保管期限を過ぎた大量の文書は、セキュリティを十分に確保した上で溶解処理しています。紙を裁断せず繊維がそのまま残るため再生しやすい利点があり、トイレトーパーに再生しています。平成23年度は39万口のトイレトーパーに再生しました。

| 実施年度 | 廃棄文書重量 (トン) | 再生トイレトーパー 個数 |
|------|-------------|--------------|
| H17年 | 103         | 103万個        |
| H18年 | 36          | 36万個         |
| H19年 | 45          | 45万個         |
| H20年 | 40          | 40万個         |
| H21年 | 52          | 52万個         |
| H22年 | 40          | 40万個         |
| H23年 | 39          | 39万個         |



高効率反射板やFHF蛍光灯、LED照明の設置を進めています(本営業部ATMコーナー)



上尾支店の屋上に設置された太陽光発電パネル。ロビーの照明や空調に利用しています

### 全役職員が一丸となって

理事長を最高責任者とする体制の中で、環境マネジメントを推進し、本部総務部に社会貢献課を設置しています。環境管理委員会には環境担当役員、本部長及び本店営業部長が参画し、社会貢献課が事務局機能を果たしています。

環境管理委員会は、「環境方針」に則った「環境目標」を毎年決定し、本店及び支店の環境の取り組みを総合的にマネジメントしています。

また、平成16年には国際標準化機構(ISO)が定めるISO14001の認証を取得。理事長や担当役員が、その進捗状況を定期的にレビューし、PDCA(PLAN-DO-CHECK-ACT)のサイクルで、全体的な環境マネジメントを推進しています。

### 環境意識の啓発と高揚

全職員は環境マネジメントシステム(EMS)カードを携帯しています。そこには、かわしんが掲げる「環境方針」「私たちの環境目標」「私たちの環境行動ルール」が記載されています。



職員一人ひとりが「環境方針」や「環境目標」を自覚し、日頃から意識向上に努めています

### 職員へ向けた環境教育の実施

本部、本店営業部への異動者、および新入職員とパート職員を対象にした環境教育を実施しています。環境マネジメントに基づいて計画的、継続的に展開することで、職員が環境についての知識を学び、環境意識を向上させます。



ISO14001の研修会。環境管理システムへの理解を深めます

### 「チャレンジ25」キャンペーンに参加

2009年9月に開かれた国連気候変動サミットで、日本政府は温暖化効果ガスの排出量を2020年までに、1990年比で25%削減することを表明しました。政府はそれまでの「チーム・マイナス6%」から、さらなるCO<sub>2</sub>削減に向けた「チャレンジ25」キャンペーンを展開。かわしんは、この国民運動に当初から参加して、削減行動に取り組んでいます。

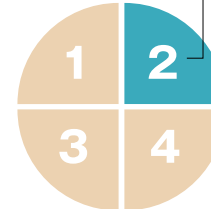


### 販促品で、消費者としての環境意識の啓発

セールスプロモーションにも環境の視点を取り入れています。平成23年度は販促品にエコタオル、ポケットティッシュ(さとうきび使用)、台所洗剤(オーガニック素材使用)、リサイクル食器など11品目を採用。消費者としての環境意識の啓発に務めました。



サトウキビから作ったティッシュなど、環境に配慮した製品を販促品に採用しています

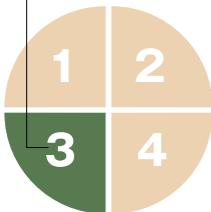


# Eco Monitor

## 環境マネジメントを推進しています

地域の発展と環境保全に向けて、環境マネジメントシステムを導入し推進しています。地域社会の一員として環境問題に対する基本的な考え方を示し、具体的な活動につなげていきます。





# eco products

お客様から満足、安心、信頼を得られる金融商品やサービスを提供することが、かわしんの基本です。全職員がお客様の声に耳を傾け、お客様と共に環境負荷低減に向かって心をかけています。

## 環境保全へ向けた商品やサービスを提供しています

### 環境クリーン定期預金

環境クリーン定期預金は、募集達成総額の一定割合に相当する額をかわしんが負担し、環境保護のために寄付するものです。第12次(平成23年12月)、第13次(平成24年10月)の募集を行い、募集金額はそれぞれ100億円でした。

環境関連商品によって、環境保護活動を経済的に支援するだけでなく、募集パンフレットに「さいたま緑のトラスト写真コンクール」の入賞作品を採用するなど、商品の企画開発を通じて環境保護団体との連携を深めています。



第13回の募集は10月1日に開始しました

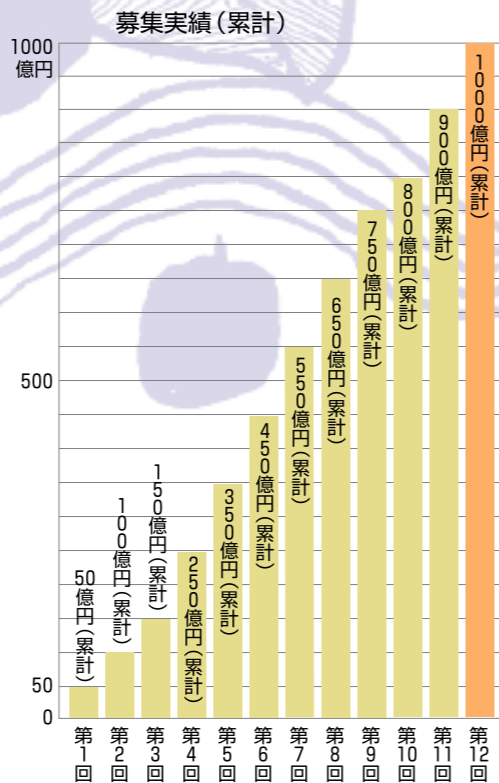
### エコライフを支援する「エコ・リフォーム」

自然エネルギー利用や省エネルギー対策など、太陽光発電設備設置、もしくはエコ仕様設備設置、耐震工事などリフォーム(増改築・修繕)資金、バリアフリーリフォーム資金および、それに伴う諸費用の取扱いをしています。



### 環境関連の融資やローン

ISO9001やISO14001の認証取得を支援する特別融資を企画・開発しました。取得にかかわる運転資金や設備資金などにご利用いただけます。また、エコカー購入などに利用できる固定金利型のカーライフプラン・エコカー資金も好評でした。



### 自然保護団体との連携

環境保全や保護活動を支援する環境関連の商品やサービスを企画・開発・販売する中で、埼玉県をはじめさまざまな団体との連携を深めています。

そのつながりを生かして、財団法人さいたま緑のトラスト協会が主催する写真コンクールの入賞作品をカレンダーに採用しました。

カレンダーは2万5000部を作成。お客さまへ配布することで、同協会の活動を支援し、埼玉の貴重な自然環境への関心を高め、保全・保護する必要性を訴えました。

2013年版には「身近な緑の部」の最優秀作品を採用しました。さいたま市の自然を撮影した美しい作品です。



### 地域社会の一員として

人的な経営資源を活用し、事業以外にも地域社会に貢献しています。職員一人ひとりが地域社会の一員としての自覚を持ち、清掃やお祭り、植樹会などの地域活動やボランティア活動に参加しています。



みんなで森をつくる集いに参加しました。県知事や春日部市長も出席して15種類約600本を植樹しました(春日部市)

### 埼玉県の「みどりと川の再生」を応援

環境クリーン定期預金を通じて、彩の国みどりの基金へ毎年寄付を行い、埼玉県が推進する「みどりと川の再生」事業を積極的に応援しています。

今年は5月14日に、埼玉県庁を訪れて500万円を寄付しました。



感謝状を手に上田知事を囲んで、山口会長(左)と熊木常務

## ECO EYES



社会貢献課は3名体制でスタートしました

### 社会貢献課を新設。地域社会から選択される信金へ

平成24年4月、総務部に社会貢献課を新設しました。これまであった環境管理室を発展的に解消し、地域社会へいっそう貢献できる態勢を整備。環境関連分野に加え、教育や文化、スポーツ、産学連携など幅広い分野から積極的に社会貢献活動を展開します。

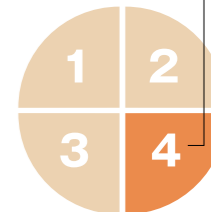
新たな企画にも取り組み、かわしんの独自性を強くアピールしてイメージアップを図り、地域社会から選ばれ続ける信用金庫を目指して、地域社会の発展にますます貢献します。

### 「エコ通勤優良事業所」に認証登録しました。民間事業では県内初、最多です

エコ通勤優良事業所認定制度は、電車やバス、徒歩や自転車など環境に優しい通勤方法に取り組んでいる事業所や自治体を優良事業所として認証登録するもので、平成21年に国土交通省などが創設しました。2012年8月末現在の登録数は全国で562。そのうち県内の認定数は66です。

2012年2月、かわしんの本店、支店を合わせて45事業所が、この制度に認証登録されました。県内では最多の認証登録数で、民間事業所としては県内初のことです。

かわしんがマイカー通勤を原則禁止し、エコ通勤をスタートしたのは昭和54年。認証登録は、エコ通勤に対する意識の高さや積極的な取り組み姿勢などが評価されたものです。



# eco community

かわしんが環境に対して何を考え、何をしようとしているのかを地域社会へ伝え、地域のみなさんがかわしんへ何を望んでいるかを知ること。地域社会とのコミュニケーションを進めています。

## 環境への価値観を共有する取り組みを進めています